

◎成果(数値)目標の評価基準について

下記のとおり、A+、A、A-、Bの4段階で評価。

① 成果(数値)目標

<第1段階>

評価	
A	プラン策定時と比べて数値が改善・横ばい
B	プラン策定時と比べて数値が悪化

※計画に掲載しているプラン策定時の数字が単年度の数字で、目標値が累計値の場合は、出発点の数値と目標値を年平均にしたものを比較。

<第2段階>

評価	
A+	成果(数値)目標を達成した(または達成する見込みがある)もの
A	成果(数値)目標をほぼ達成したもの ⇒成果(数値)目標の達成率(または達成見込率)が 60%以上100%未満のもの
A-	成果(数値)目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの ⇒成果(数値)目標の達成率(または達成見込率)が 60%未満のもの

<① 成果(数値)目標の達成率の考え方>

ア 増加量を把握できるものについては、増加量の達成率で評価。

イ ア以外のものは、R元目標値に対する実績の達成率で評価する。

ウ 目標値の数値が出発点より小さい場合は、目標値を達成していれば「A+」、目標値を達成していなければ「B」とする。

エ 実績が平成30年度以前の数値の場合は、直近値が目標値を達成していれば「A+」、目標値を達成していなければ「B」とする。

②定性的な目標

目標を達成したものは「A+」、目標達成できなかったものは「B」

<② 定性的な目標の評価の考え方>

例:数値の「増加」という目標の場合、増加していたら「A+」、減少していたら「B」と評価。